

校 園 名：香川大学教育学部附属坂出小学校

所在地：〒762-0031 坂出市文京町2丁目4-2
電話番号：0877-46-2692

記載日：平成28年5月9日 記載者：樽本 導和 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

大正2年に創立、今年で104年を迎える。研究発表会は今年で99回目である。本校OBからは常に叱咤激励をいただき、本校の銘板に刻まれている「歴史を知り、歴史にこたえよ」を肝に銘じ、附属の名に恥じぬ実践を発表しようと全教員が心を一つにしている。

人事はすべて県教委との交流である。香川県西部教育事務所管内の市町から、中心として活躍している教員や若手の将来有望な教員が集まっている。研究集会では激論が飛び交うが「論を切って人を切らず」を合い言葉に研究テーマの実現に向け、共に納得できる実践を生み出している。

また、本校転出後は、附属勤務で培ったことを生かし、教育委員会等、県下の教育をリードしていく立場になる教員も多い。附属はそういう人材を育成する役割も果たしてきている。

9月の教育実習期間は、研究集会を休止し、実習生の指導に全力を傾ける。指導案作成から模擬授業、学級全体指導に個別指導の在り方等、配属された学級の子ども理解を基盤として、即戦力となれるよう、たくましく柔軟な態度を育てている。「学生は教育界の宝」が合い言葉である。本校で実習した学生が、公立校実習や新任の学校で活躍している様子を聞くのが全教員の喜びである。

児童は421名、各学年2学級ずつの12学級である。坂出市のみならず近隣の市や町から通う児童も多く、JRやバス通学者が約半数である。明るく、素直で、互いに思い合える子どもが多い。保護者も学校教育に深い理解があり、協力的で、PTA活動はとても活発である。

幼、小、中、特別支援学校の4校園が集まった附属坂出学園としての結びつきが強く、秋の運動会は合同で行っている。また、年間カリキュラムの中にも連携教育を位置づけており、一貫教育が伝統でもある。幼小中の完全連絡進学制度や幼小中の保護者が一体となったPTA「附属坂出学園松韻会」も特徴である。

研究面においても特別支援学校や特別支援教室（すばる）の知を活用し、ユニバーサルデザインの視点から教材、板書、環境に配慮し、全員参加の授業づくりに取り組んでいる。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 大正2年からの卒業生名簿はすべて整理しているが、追跡調査はしていない。
- ② 平成24年の創立百周年記念事業を行った際、大学教授や作曲家等で多数の著名な方がいることが分かった。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 附属坂出学園で勤務した教員と現在勤務している教員で構成される「附属坂出学園松風会」を結成している。2年に1度総会を開き、その都度、現在の状況を更新した名簿を作成し、全会員に配布している。総会や研究会の折には、たくさんのOBが参加し、ご意見をくださるなど、本校の研究や学校運営の支えとなっている。また、松風会の市町毎の支部も結成されており、交流も盛んである。

- ② 活躍状況は名簿ですべて把握している。会員の所属等については学校園、大学、教育委員会、退職 OB と全てに渡っており、名簿を見ればすべて分かるようにしている。
- ③ 本校勤務経験者は県教育委員会、教育事務所、教育センター、市町教育委員会、各市町公立学校の校長、教頭、主幹教諭、指導教諭と県内各地で本県の教育のためご尽力、活躍されており、いつも、附属坂出学園の研究や運営にご理解、ご協力をいただいている。



松風会 平成26年8月30日 於 ホテルサンルート瀬戸大橋

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

<地元の公立小学校（坂出市、綾歌郡）とのつながり>

- ① 本校研究発表会を香川県小学校教育研究会坂出綾歌支部の活動に位置づける

香川県小学校教育研究会は各支部毎に、年間計画を作成し、年間6回午後から全教員が集まり、研修を行っている。H20 年度より、その中に、本校の研究発表会を位置づけた。坂出市、綾歌郡の全ての小学校教員約320名が、本校が公開する教科の授業を参観し共に学んでいる。



【本校研究発表会全体会の様子】

- ② 坂出綾歌校長研修会を本校で開催

研究発表会の3ヶ月前頃、坂出市、綾歌郡の公立小学校すべての校長先生を招き、研究内容の発表と代表者による授業を公開し、公立小学校長の立場からご意見をいただいている。いただいたご意見をもとに調整したものを研究発表会で発表している。また、各公立校長は自校の職員に研究の視点をアナウンスして、目的意識をもって研究発表会に参加できるよう配慮している。



【公立の校長先生方から意見を伺う】

- ③ 指導者、情報提供者としての要請

香川県小学校教育研究会の公立小学校の教員が授業を行う際、指導者としての要請が多く、事前検討会や授業討議に出向き適切な指導を行ったり、国の動向等の情報を提供したりしている。

<香川の教育研究団体とのつながり>

- ① 地域の教育研究団体の事務局、研究部を担当

香川には、教科毎の教育研究団体があり、その事務局及び研究部を坂出・高松両附属の教員が受け持っている。夏季研修会の企画・運営、指導等、中心的な役割を果たしている。これが、長年の伝統であり、附属へ赴任したとたん年齢にかかわらず、県下の教科教育のリーダーとなる。校内の研究に加え、この場が附属教員の教科の専門性を育てるのである。

- ② 土日を利用した研究同好会の活性化

勤務時間内に行う香川県小学校教育研究会の活動とは別に土日等の休日を利用して行う教科毎の研究同好会（香算研、香理研、香社研、国語ワークの会、体育研、等）の事務局及び研究部も坂

出・高松の両附属の教員が受け持っている。教科毎に全県を対象に研修会やフィールドワークを開いたり、各郡市支部へ指導に行ったりして県内若手教員の参加も多い。

③ 土曜日の公開授業研究会

土曜日に附属での授業公開と討議会は、若手の参加も多く授業を通して学ぶ場を提供できている。坂出附属の教員が授業者の時は高松附属の教員が指導者を担当し、高松附属の教員が授業者の時は坂出附属の教員が指導者を担当するなど、両附属が切磋琢磨して研修を深めている。県下の若手教員からの希望もあり、H28年度からは、理科の授業公開日と算数の授業公開日を同じ日に設定し、理科と算数計2本の授業を見られるようにした。体育の授業公開も別日に行っている。

<香川大学と坂出市の公立小学校と連携した教育実習生の指導>

香川大学では、3回生時に本校で5週間実習を行った小学校を主免とする学生のうち、希望のある学生は、4回生時に坂出市内の公立小学校で2週間教育実習を行うようになっている。

本校はその受け入れを公立小学校に依頼し、各公立小学校のニーズと学生の様子を踏まえ、配属を決めている。事前、事後指導は附属が行い、附属教員と公立小学校担当者が連絡を取り合い、公立小学校にも学生にもプラスになるような実習ができるように配慮している。

自ら希望する学生であり、意欲も高く成果が上がっている。昨今、希望する学生の数も受け入れてもらえる公立小学校の数もどんどん増えてきた。公立小学校にも香川大学、附属小学校とともに実習生を育てようとする風土が広がってきている。

<香川大学との合同研究>

毎年、6月に香川大学の先生方を招き、本校の代表者の授業をもとに本年度の研究内容について意見をいただいている。また、毎年2月に大学にて開催される学部附属合同研究会では、各教科で共同研究者として成果を発表している。科学研究費にも多数応募している。

<大学教授である校長の専門性を子どもの教育に生かす>

本校校長は香川大学より2年任期で派遣される。英語学が専門の校長の時には異文化についての講話を、心理学が専門の校長の時には相談活動や家庭教育講座を、天文学が専門の校長の時には親子天体教室を充実させ、子どもの教育に生かせるようにしている。現在の校長はオペラ歌手であるので、オペラ講演や合唱指導にご尽力をいただいている。



【校長のオペラ講演】

<現職教育等の指導者派遣>

公立小学校からの現職教育の指導者派遣要請が多く、年間50回を超える。高知県、岡山県など他県からの要請もある。呼んでいただけることに喜びを感じ、自分を伸ばすよい機会だと捉えている。学校視察の要請も多く、常日頃の授業を公開している。また、坂出市教育委員会からは市教委が進める算数・数学オリンピックの実行委員会としての派遣要請が、高松市教育委員会からは若手教員のための理科実験研修の講師派遣要請があり、地域の教育に貢献している。

体育科には運動会表現種目の提供や指導の依頼も多い（平成27年度は5校）。

<本校の研究成果や附属坂出学園の取組の発信>

研究だよりは年2回、附属坂出学園だよりは年3回発刊し、全国附属小学校、県内の公立小学校と教育関係機関、本校OBに配布している。HPでも全国に発信している。

また、本校の研究授業及び研究集会の全てをHPで案内し、参加を積極的に受け入れ、共に学べる仲間を増やそうと考えている。

<香川県立坂出高校との連携>

本校と坂出高校は昭和 22 年まで、香川師範学校女子部附属国民学校の尋常科と高等科であり、同じ敷地にあった。現在も隣同士である。香川県教育委員会は平成 29 年度より、坂出高校に教員を志す生徒が学べる教育コースを設立する。ルーツは同じであること、隣同士であることから、本校も教員を志す高校生の役に立てればと考えている。とりわけ、平成 28 年度は、互いに行き来できるよう、高校陸上部との合同練習や坂出高校音楽科の演奏見学等を企画している。

<PTA との連携>

本校の PTA 活動は大変熱心である。他校でも参考になりそうな取組を以下に紹介する。

① お助けママーず（家庭科の調理、裁縫等の支援ボランティア）

全校生の保護者を対象に募集し、メール配信システムを利用して案内、参加してもらっている。祖母の参加もあり、H27 年度は、年間 34 時間、延べ 100 名以上の協力が得られた。

② お話しママーず（昼休みの読み聞かせボランティア）

全校生の保護者を対象に募集し、年間 25 回程度、読み聞かせをしていただいている。ALT と一緒に英語の読み聞かせも行っている。

③ ウエルカムパーティー（新 1 年生と保護者を対象とした歓迎パーティー）

毎年、5 月の中旬の土曜日に役員が中心となり企画運営に当たる。親子でゲームをした後、保護者は役員から話を聞いたり、担任を交えて懇談を行ったりしている。子どもも大人も仲間が増え、大変喜んでいる。

④ 土曜クラブ「OYG」（おやじが中心となり行事を企画運営する）

H27 年度は、カヌー教室、夏の自由研究支援、逃走中を行った。

⑤ 附属学園朝の交通立哨ボランティアと JR 親の会

朝の立哨ボランティアは幼小中全ての保護者を対象に募集し、毎朝、危険箇所の立哨をしていただいている。JR 親の会は、下校時に坂出駅のパトロールをしていただいている。得られた情報はメール配信システムを利用して、親の会全員に配信し、学校だけでなく家庭での指導も呼びかけている。



【OYG による「逃走中」】

⑥ キャリア教育支援（卒業前の 6 年生にエールをこめて、自分の仕事のやりがいや思いを語る）

⑦ 地域の行事「さかいで大橋祭り」の総踊りに「附属坂出学園連」として参加

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

毎年の研究発表会には 2 日間で延べ約 1500 人程度の参会者がある。特に 30 代までの若手が全体の約 55% と増えてきた。土曜の公開研究会も若手を中心に盛会である。若年教員の役に立てる喜びとやりがいを感じている。また、県内公立校の研究内容の中に本校が昨今研究してきた、「思考力」「ユニバーサルデザイン」「対話」等の文言が多く見られるようになったこと、公立校からの指導要請が多いこと、香川県小学校教育研究会でリーダーシップを発揮していること等から考えると香川の教育推進になくてはならない存在である。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

上述した研究面での地域貢献に加え、本校は、附属勤務を生かし香川の教育のリーダーを育てている。これまでの先輩教員の熱意と努力の賜である。現職教員もこの伝統を大切に附属勤務に誇りとやりがいをもって取り組んでいる。この附属文化が、学習指導をはじめとし、教育実習の在り方、PTA 活動の在り方、幼・小・中・特支の連携の在り方等に光明を見いだすと考える。